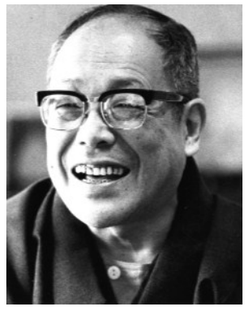
中村元記念館通信 第1號

平成24年10月10日、松江市八束町に新しく誕生した中村元記念館。中村元って誰？何をした人？インド思想って？
ひよっこ学芸員秋鹿が、わかりやすくをモットーに、中村元博士や仏教やインド思想について紹介していきます！

「一切の生きとし生けるものは、幸福であれ、安穏であれ、安楽であれ」（中村元訳『ブッダのことば』）

中村元博士とは、インド思想と仏教学と比較思想学の研究者……なんて言うと、とても難しく感じるかもしれません。だけど世界中どこの国でも、思想や宗教を研究することは、ある１つの問題の答えを探すことなんです。その問題とは「私たちは、どのように生きるべきか」。



さあ、あなたならどう答えますか？　中村元博士はこの問題の答えを、インドの思想や仏教の教えの中に見つけたのです。

博士の答えは「慈しみのこころを持って生きる」。この世界のすべての生き物の幸せを願う「慈しみのこころ」こそが、私たちが生きる上で最も大切だと、博士は考えたのです。博士は実際に、老若男女問わず誰に対しても、常に慈しみのこころを持って接しました。そして何十年も研究を続けて、1500点を超える著作・論文を書き上げ、私たちがより良く生きるための、たくさんの「ことば」を遺してくれました。

みなさんもぜひ、博士が遺したたくさんの「ことば」に会いに来てください!!

博士が愛した松江

学芸員をしていてよく聞かれるのが「どうして中村元記念館が松江市にできたのか？」。それは中村元博士が、島根県松江市で生まれたからです。そして博士が、松江をとても愛していたからです！　博士は松江市の殿町で生まれ、奥谷町で育ち、２歳で東京へ引越しました。その後再び松江市に住むことはなかったのですが、博士は何度も松江を訪れ、先祖代々の土地として深い思い入れを持ち続けたのです。ちなみに松江市名誉市民でもあるのです！

「わたくしは今日も、しばしば贈答の品には松江の菓子を利用させていただくことにしている。それは、今は帰るべき家もないが、祖先以来の地を愛するわたくしの気持ちにかわりないことを表す、ささやかな試みにはなるであろう」

（中村元『学問の開拓』）

サブカル仏教入門①

私の趣味で仏教に関するサブカル作品を紹介しています。仏教関係者様に怒られませんように。

手塚漫画は動物のかわいさが見どころ❤
（『ブッダ』9巻　潮出版社）

サブカルで仏教といえばこれだけは外せない、漫画の神様手塚治虫の『ブッダ』。ブッダの生涯とその教えが生き生きと描かれる仏教漫画の金字塔！個人的にはタイトルが『ブッダ』なのに、ブッダの登場（誕生）が３巻という遅さに衝撃を受けた作品。笑いながら仏教を学びたいなら、中村光の『聖☆おにいさん』。お名前が似てるので「もしや中村元の親戚？」とよく聞かれますが無関係です。たぶん。ブッダとイエスが立川のアパートでゆる～い同居生活をするギャグ漫画ですが、ギャグの１つ１つに仏典・聖書のエピソードが盛り込まれた本格派。ぜひ『ブッダ』とあわせて読んで、そのギャップを楽しんでください♪ちなみにどっちも中村元記念館で読めるよ！

↑私が１番ツボにはまった台詞。
（『聖☆おにいさん』1巻　講談社）

博士の本棚 ❼　中村元博士の本を紹介するコーナー

中村元『学問の開拓―「勉め強いること」に徹して―』（ハーベスト出版　2012年）

生涯1500点を超える著作を執筆した中村元博士。だけど博士ご自身のことを書かれた本は、この１冊だけ！　ずっと絶版になっていた自叙伝が、生誕１００年を記念して、郷土松江のハーベスト出版から復刊されました。博士がどのように生き、どのように「勉め強いて」きたのか。「勉強」することの本当の意味がわかる本です。

私が１番感銘を受けたのは132p「書き残すことの意味」。この本では研究について書かれているけど、研究に限らず、自分が考えたこと、感じたことを書き残すことが、どれほど大切なことなのか気づかされます。だから私も頑張って、今この通信を書き残しているのです（笑）。

小泉八雲と中村元

中村元博士は1年ちょっとしか松江にいなかったけど、その後もずっと松江を愛していた……そんな有名人、他にもいませんでしたっけ？　そう、松江を代表する文人、小泉八雲ことラフカディオ・ハーン！　中村元博士は自分の境遇と重ね合わせて、ハーンにずっと親しみを持っていたようです。

「松江には、確かにハーンを惹きつけただけの何かが残っている。静かな中に奥行きのある気品―土地の人々の人情はこまやかで親切である。この気風がハーンをして、松江を離れ難いものにしていたのであろう」

（中村元『学問の開拓』）

❋❋❋